



4年ぶりに3台の屋台・山車が大内地区を巡行

大内の戸隠神社秋季例大祭が10月15日・16日に行われ、屋台と山車が4年ぶりに地区内を巡行しました。15日は雨天のため巡行は中止でしたが、馬頭東小学校体育館では宵祭が行われ、模擬店やカラオケ、地区ごとの余興などで大いに盛り上がっていました。

16日には雨もやみ、江戸時代に作られたという下組の彫刻屋台とその年に話題になった人物などをモデルに飾り人形をつけた仲組、上組の山車が繰り出し、大勢の氏子に引かれながら大内地区内を巡行しました。また、昼には馬頭東小学校に3台が勢ぞろいし、ガラマキも行われ、一日中にぎわいをみせていました。

棚田で馬頭琴コンサート

小口梅平地区の棚田などを会場に、10月9日、「美炎・馬頭琴の調べ」が行われました。

演奏したのは千葉県在住の馬頭琴奏者「美炎」さんです。第1部では昔畑だった野原で、「スーホの白い馬」やモンゴル民謡などが演奏されました。第2部は山道を徒歩で移動して、山の中の隠れ田のような棚田を舞台に美炎さんのオリジナル曲などが披露されました。モンゴルにも毎年行くという美炎さんの馬頭琴の音は、里山の大きな舞台にも負けることなく、その非常に透明でどこまでも響き渡る音色に、集まった皆さんは魅了されていました。



那珂川町総合体育館において、10月4日、第6回南那須地区音楽祭が開催され、管内の小中学校の児童・生徒たちが、日頃の練習の成果を披露しました。

当町から出場した小中学校で入選したのは次のとおりです。なお、入選校は、10月24日・25日に開催された県音楽祭中央祭に出場しました。

入選（優秀賞）
馬頭西小学校（合奏）
「キラキラ星変奏曲」
馬頭小学校（合唱）
「Let's search for Tomorrow」
馬頭中学校（合唱）
「時の旅人」

第6回南那須地区音楽祭



第1回那珂川町長杯青少年少女レスリング大会が10月15日、16日の2日間、総合体育館で開催されました。

この大会は、レスリング競技を通じて心と体を鍛え、将来、世界で通用するアスリートを輩出しようと、那珂川町レスリング協会の主催で開催されたものです。県内外から29チーム、230名の参加があり、幼年から小学生・中学生まで全部で11の部で、体重ごとの階級に分かれて、熱戦が繰り広げられました。

町内の入賞者は次のとおりです。
男子5年の部 36kg級
準優勝 滝田和輝くん（小川）
男子5年の部 51kg級
準優勝 滝田大輝くん（小川）
※レスリングに興味のある方は左記まで
【滝田道場】☎0287(92)8770

那珂川町長杯青少年レスリング大会



マコモタケ収穫体験ツアーが10月18日、大内などで行われ、県内外から流通業者や飲食店、食品メーカー、生産者や行政・JA関係者など約40名が参加しました。

「大内左生マコモタケ栽培研究会」会長の露久保一夫さんの圃場では、春の体験で植えたマコモタケが約2メートルに育っていました。参加者は泥に足を取られながら、鎌で刈ったり、手でもぎ取ったりしました。

収穫後は山村開発センターに移動し、マコモタケの入ったソバ水団やホンモロコノ天ぷらなどを食べながら情報交換などをしました。

マコモタケ刈取りを体験



「なかにゃん」や「うさぎTV」が那珂川町を紹介

栃木県のキャラクターに正式に就任した「とちまるくん」や地域のマスコットキャラクターを紹介しようとして、とちぎテレビの番組「栃木のきらめき」の撮影が行われました。

10月21日には「とちまるくん」が那珂川町を訪れ、馬頭広重美術館で町のキャラクター「なかにゃん」と一緒に撮影し、美術館などを紹介しました。その後は「大八寿司」に移動し、町の新しい特産品の「温泉トラフグ」を紹介しました。

なお、この様子は、11月21日（月）午後7時からのとちぎテレビ「栃木のきらめき」で放送される予定です。
【再放送…11月24日（木）】

英語スピーチコンテスト



英語スピーチコンテスト 塩谷南那須地区大会

第21回栃木県中学校英語スピーチコンテスト塩谷南那須地区大会が、10月21日に小川総合福祉センターあじさいホールで開催され、管内の14中学校からそれぞれ学年代表など48名が出場し、熱弁を奮いました。

1年生の部の最優秀賞には、「父母とも中学校でプラスバンド部でしたが、私も今、同じ部です。先日は家族で小さな音楽会を開きました。私たちに幸せをくれ、心をつにつしてくれる音楽が大好きです。」と語った遠藤万智さん（馬頭中）が選ばれ、県大会へ出場することになりました。

また、2年生の部では、小峰加奈理さん（馬頭中）、3年生の部では、笹沼郁未さん（馬頭中）がそれぞれ優秀賞に選ばれました。

ホンモロコを初取り上げ



「那珂川町ホンモロコ研究会」（川和義夫会長）では、地域活性化や耕作放棄地対策等のために養殖に取り組んでいる「ホンモロコ」の初取り上げを10月25日に行いました。

大内左生の休耕田を利用した養殖池には、同会員のほか技術協力してきた馬頭高校水産科の生徒や県水産試験場の職員など約40名が参加し、池に入って地引網で捕獲しました。

取り上げたホンモロコは大きさを仕分けし、泥抜きのために同校の飼育池に運び、一週間ほど蓄養したあと出荷・販売されました。

※全長10cm程度のコイ科の小魚で、琵琶湖の固有種。味は淡白で肉質が良く美味。関西では高級魚として扱われる。